

日吉台地下壕保存の会

会 報

第45号

発行 日吉台地下壕保存の会

編集 事務局

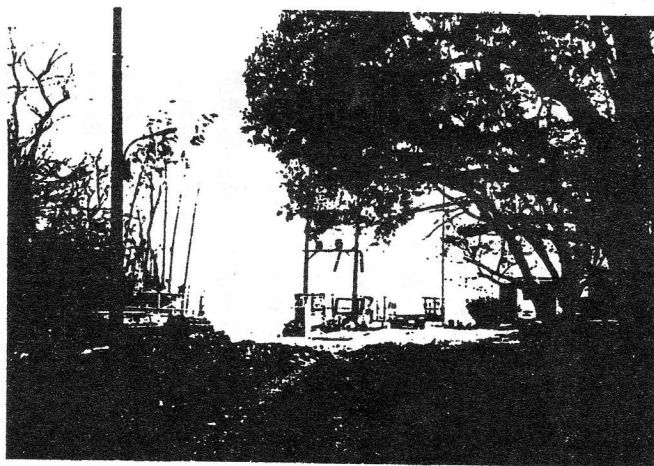
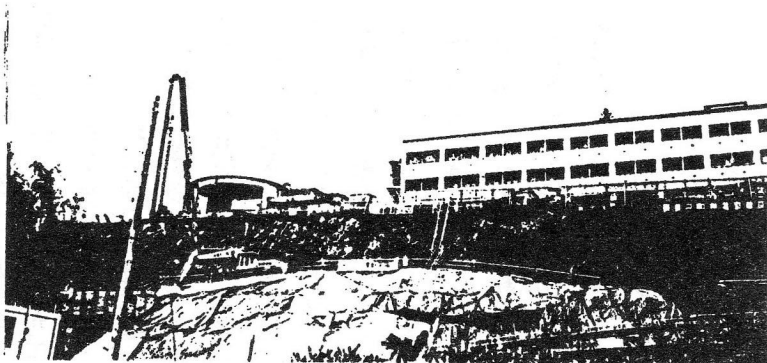
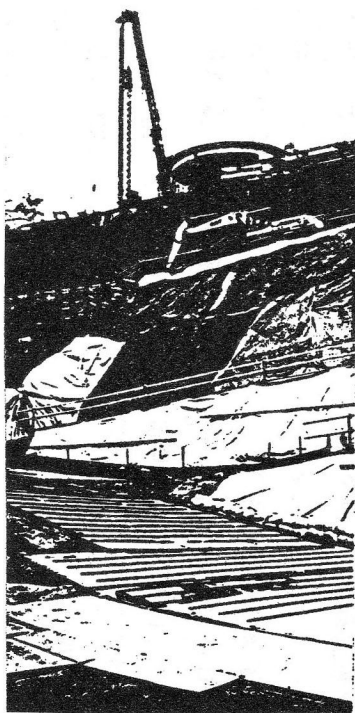
223 横浜市港北区下田町3-15-27

寺田方 TEL.045-562-1282

(年会費) 一口千円で、一口以上

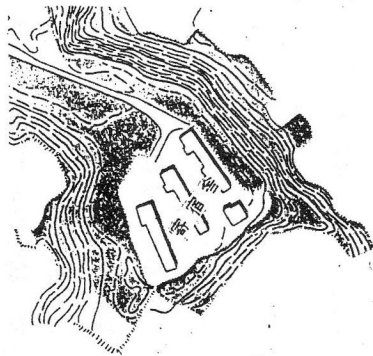
郵便振込口座番号00250-2-74921

(加入者名)日吉台地下壕保存の会



慶大キャンパスの南西斜面に当たる
箕輪町の一部を歩いてみた。

目 次	ページ
日吉キャンパス周辺の今昔	2
幹事会報告	3
現行会則と会則(改正案)	4～5
連載日吉台地下壕	
当時の関係者の思い出話23	6～7
運営委員会報告	8
総会のお知らせ	8



日吉ロキヤンパス

周辺の今昔

幹事

中沢

正子

日吉台地下壕の隣接地が売却され、マンション工事が始まっていると聞いて、慶大キヤンパスの南西斜面に当たる箕輪町の一部を歩いてみた。

したあとは、一部を書庫として使用していた。

斯く言う私は昭和三二年か

昭和三五年の狩野川台風の時には、網島方面の田圃が水浸しとなり、湖水と島の絶景を見る思いであった。三九年には新幹線が営業を開始するが、試運転の音の記憶はない。

進駐軍の接収が解除されて数年がたっていたが、まだ余韻が完全には消えていなかった。

寮の西側は谷になり、その

向うに松山があった。ある時くよし（たきび）の火が風にあおられ、松の木の下草に燃え移り、山裾から炎が山頂め

がけて駆け登ったことがあった。一瞬の間に下草が黒くな

ったが、それだけで終りほったとしたものだ。その山も切り崩されて三階建てのマンションになっていた。マンションの庭に立つと二棟の寮と円形風呂場がよく見える。鉄骨が入居していたが、三田に移転

当時中寮には、学生が寄宿

し、南寮には斯道文庫が一時

入居していたが、三田に移転

し、南寮には斯道文庫が一時

むき出しになった風呂場の陰に南寮が見え隠れしている。進駐軍はこの風呂場をダンスホールにしていたと言う。

あの頃、中寮の南側に斜めに突き出たコンクリートの建造物があり、お風呂場として学生たちは使用していた。中に階段がつづいていたので、あれが地下に降りる階段だったと思う。あの下にあのよう

昔のことをあれこれ思い出しながら、日大高校の方面から山裾を巡ってみると、南寮と円形風呂場の見える位置の山の斜面がすっぽりと切り崩されているのが見えた。中段ではクレーン車が鎌首をもたげるように稼働していた。

に大きな地下壕が存在するとは知るよしもなかったし、箕輪町の山裾から地下に入れることなど全く知らなかった。

あの鬱蒼とした山が簡単に切り崩される恐ろしい光景を見てしまった。とうとう来るものがきたと思った。このようにしてあちら、こちらと傷口が大きくなり、抜きさしならぬ事態になるのであろう。

昭和三七〇八年頃、川崎市の神木不動にお参りに行った時、近くにいた青年が昭和二〇年代に日大高校に通っていた、よく地下壕に出入りし、いろいろな物が残っているのを目撃したと話してくれた。

寮のある台地に登ってみる。楠が並木のように生い茂っている道筋には、寮関係者以外

聞いた始めだと思う。

いる道筋には、寮関係者以外

立入禁止の立看板があり奥まで行かれない。工事中の現場近くまでそと近づいてみる。南寮の南面三三近くで斜面が切り崩されている。果たしてマンションはどこまで迫り、高さはどの位になるのであろうか。現在使用されていない南寮ではあるが位置関係が心配になる。

慶大キャンパスのあるこの台地の上は慶大の持物であるようだが、台地の斜面はそれぞれの特主があり、今、相続問題で苦慮している地主さんが外にもいると聞く。何億の税金と聞くとおいそれと話し合うわけにはいかないが、日吉の町の環境保全の面からも、地下壕保存の面からも、何等かの手を打たなくてはならない時がきていることを痛感して、日吉の駅へ戻った。

松戸市△△知事生口第八回

二月一七日午後六時

慶大高校地学教室

報告

一、一月二二日神奈川県高等学校教職員組合主催の見学会三一名参加

二、同二五日 慶大日吉事務長室にて「地下壕の安全性」などについて会談。寺田事務局長出席

三、同二六日「赤煉瓦倉庫を平和博物館に」の要望書を市長へ提出、記者会見

四、同三〇日幹事有志による地下壕関係の学習会

五、同日「横浜・川崎平和のための戦争展」第一回実行委員会

六、二月二日日吉キャンパス基本計画委員会第二回報告懇談会に寺田事務局長出席

七、同四日慶大高生徒による見学会伊藤教諭外三五名参加
八、同八日「赤煉瓦倉庫を平

和博物館に」イベントで日吉

台地下壕のビデオ放映。六五名参加、右翼のシユプレヒコールがあった

九、同二七日会報四四号発行、発送。第七回幹事会開催

議事

今後の活動について

*総会に向けて会則の改正案等議案書の検討予定の所、準備が整わず先送り

*総会の日程 四月二五日頃
*98平和のための戦争展よこはま 五月二二〜二四日県民センターで開催予定

*98平和のための戦争展かながわ 八月二七〜三〇日鎌倉芸術館ギャラリーで開催予定

これらの催しにどのように取り組むか、決定しなかった

松戸市△△知事生口第八回
一九九八年二月一〇日一八時
ブルベア

報告

一、二月一八日幹事有志で

防衛庁戦史資料室へ資料調査

二、一月一三日「赤煉瓦倉庫を平和記念館に」事務局会議に出席

三、同二八日大清水高の生徒三人と先生五人による見学会

平和に関する絵本作りのため

四、同二二日「平和のための戦争展かながわ」第一回実行委員会に出席

五、同日「平和のための戦争展よこはま」第一回実行委員会に出席

六、同二四日港北区政推進課主催「日吉地区地域別懇談会」の「街づくり」の会で日吉台地下壕の保存について寺田・喜田が発言

七、同二九日「赤煉瓦倉庫を平和博物館に」事務局会議に出席

八、同三二日「赤煉瓦を・・」の署名運動をランドマーク・タワー歩く歩道入口で行

う (八ページにつづく)

会の結成10年を迎え、会則を改正して、新しい1歩を踏出して行こうと考えています。会則改正案のご検討をお願いいたします。

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則

1989.4.8 成立

1990.4.7 改正

第1条（名称） この会は、「連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会」（略称：日吉台地下壕保存の会）という。

第2条（事務局） この会の事務局は、横浜市港北区下田町3-15-27 寺田貞治方におく。
（電話：045-562-1282）

第3条（目的） この会は、次のことを目的とする。

1. 日吉台地下壕を、平和記念の史跡として保存する運動をすすめる。
2. 日吉台地下壕に関する調査研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようにする。
4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館」を建設する運動をすすめる。

第4条（会員） この会は、会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体によって構成する。

第5条（事業） この会は、次の事業を行なう。

1. 日吉台地下壕の保存に関する資料・パンフレットなどを作成し普及する。
2. 日吉台地下壕の調査・研究をすすめる。
3. 日吉台地下壕の見学案内・学習会・講演会・シンポジウムなどを行う。
4. 日吉台地下壕の保存・平和記念資料館の建設について、関係諸機関に要望していく。
5. その他、会の目的を達成するために必要な事業を行う。

第6条（組織） この会に、次の運営委員をおく。

- 会 長（1名） 会を代表し、会務を統轄する。総会、運営委員会を召集する。
- 副会長（若干名） 会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。
- 幹 事（若干名） 事業の各部門を担当し、事業の推進に当たる。
- 事務局長（1名） 会の庶務を担当し、会計を管理し、会全体の運営推進に当たる。幹事を兼任し、幹事会、事務局会を招集する。
- 事務局員（若干名） 事務局長を補佐し、実務を推進する。幹事を兼任する。

第7条（会計監査） この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会計を監査し、総会に報告する。

第8条（会議） この会は、次の会議をもつ。

1. 総 会 年1回開き、活動の総括、決算の承認、方針・予算・会費の決定、運営委員及び会計監査の選出、その他必要な事項について協議する。
2. 運営委員会 必要に応じて開き、会の運営、事業の推進について協議する。
3. 幹事会 必要に応じて開き、事業の推進について協議する。
4. 事務局会 必要に応じて開き、実務の推進に当たる。

第9条（顧問） この会は、運営委員の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は会長または事務局長の諮問に応じ、必要な助言を行う。

第10条（経費） この会の経費は、会費その他の収入によってまかなう。会費は、年間個人1口1000円、高校生以下1口500円、団体1口2000円で、1口以上とする。

第11条（付則） この会則は、1990年4月7日より施行する。

連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会会則（改正案）

- 第1条（名称） この会は「連合艦隊司令部日吉台地下壕の保存をすすめる会」（略称：日吉台地下壕保存の会）」という。
- 第2条（目的） この会は次のことを目的とする。
1. 日吉台地下壕を平和記念の史跡として保存するための運動をすすめる。
 2. 日吉台地下壕に関する調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕を史跡として保存する意義を市民に広め、永く後世に語り伝えられるようにする。
 4. 日吉台地下壕の保存と共に、戦争と平和の問題を考え、学習できる「平和記念資料館」（仮称）を建設する運動をすすめる。
- 第3条（会員） この会は会の目的に賛同し、会費を納入する個人ならびに団体により構成される。
- 第4条（事業） この会は次の事業を行なう。
1. 日吉台地下壕の保存に関する資料、パンフレットなどを作成し普及する。
 2. 日吉台地下壕の調査、研究をすすめる。
 3. 日吉台地下壕の見学案内、学習会、講演会、シンポジウムなどを行なう。
 4. 日吉台地下壕の保存および「平和記念資料館」（仮称）の建設について関係諸機関に働きかける。
 5. その他、会の目的達成のために必要な事業を行なう。
- 第5条（運営） この会は運営委員（10名前後）によって構成される運営委員会によって運営される。運営委員は立候補し、総会において承認を得る。
- 第6条（組織） 運営委員会から会長および副会長を選出し、総会に報告し承認を得る。
会長（1名）は会を代表し、運営委員会を統轄し、総会および運営委員会を招集する。
副会長（若干名）は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- 第7条（事務局） 運営委員会には事務局をおく。事務局は総務と会計で構成される。その細則は別に定める。
- 第8条（会計監査） この会に会計監査（2名）をおく。会計監査は会の会計を監査し、総会に報告する。
- 第9条（総会） 総会は年に1回開き、活動の総括、決算の承認、活動方針および予算の承認、運営委員の選出、会長および副会長の承認、その他必要な事項について決議する。必要に応じて臨時総会を開くことができる。
- 第10条（会費） この会の経費は会費とその他の収入でまかなわれる。会費は年間で、個人は1口1000円、高校生以下1口500円、団体1口2000円で、1口以上とする。
- 第11条（顧問） この会には運営委員会の推薦によって顧問をおくことができる。顧問は運営委員会の諮問に応じて必要な助言を行なう。
- 第12条（付則） この会則は1989年4月8日に成立する。
この会則は1990年4月7日に改正され施行される。
この会則は1998年4月25日に改正され施行される。

連載

日吉台地下壕

当時の関係者の

思い出話 23

終戦前後 2

軍関係の方々に伺います。

★久保寺重夫氏・日吉本町・

元東京警備隊第七分隊

終戦直後、他の部隊は書類を焼いたが、警備隊は焼くような重要な書類がなかったの
で余り焼かなかった。

倉庫にあった米や油、その他の食料品は下士官や予備学生が持つて行った。トラックで運んだ人もいた。兵は何も持たずに戦後すぐ帰った人が殆どである。兵はどこに何があるかも知らなかった。

戦後一カ月残務整理で残っていた。警備隊に消防車が一

台残され、日吉には八〇九人残り、上の人は東京の方に移った。後に東京警備隊は保安隊になった。

★千葉朝夫氏・元海軍経理局

第三課

終戦の日、本土決戦をやるというので、妻を切り、自分も死ぬつもりでいた。実際、海軍省の中には、八月一日に腹を切つて死んだ人もいた。現高校校舎の中庭に全員を集め、玉音放送を聞いた。二〇分位茫然自失の状態であった。海軍省にいたら自決していたと思う。いつの間にか三〇〇人近くいた人が皆いなくなっていた。

副官から書類を焼けという命令が来た。現金出納帳はじめ、すべての書類を焼いた。その後、GHQから電話で、「戦争経費を報告しろ」と命令を受け、部下と記憶を頼つ

て報告した。

★石原光氏・元海軍省艦政本

部・中尉

「昭和二〇年八月一日、日本はポツダム宣言を受諾した」と、終戦の数日前に軍令部から連絡があった。軍令部の情報部がアメリカの放送を傍受して得たものであった。

八月一日の玉音放送は、艦政本部で聞いた。終戦になったので日吉への引越は中止、庭に大きな穴を掘つて、機密書類をすべて焼却した。まる二日かかった。

進駐軍が第一生命ビルに進駐した時は、実弾を持つて艦政本部の警備をしていた。除隊したのは、九月三〇日であった。

★本田直左衛門親英氏・元海

軍航空本部・中尉

昭和二〇年八月六日広島に原子爆弾が落ちたあと、海軍

省からも視察にいった。一発で広島が焼かれた事を聞いたが、原爆から身を守ったためには、白いシーツをかぶれといわれた。八月七〜八日頃、軍令部第三部よりポツダム宣言受諾のことを聞いた。

玉音放送は現在のバスケットコートの前でスピーカーで聞いた。音が悪くよく聞取れなかったが、情報を知っていたので内容は分かった。東京警備隊の士官が酒を喰らつて暴れるのを見た。書類を地下壕から出た所の谷でドラム缶で焼却した。

戦後は、田村町の日産会館（鮎川義介）に入つて終戦処理をした。米軍が日本の飛行機を持つて行ったが、その時の引渡しの手続きなどの仕事もした。一〇月に除隊したが、もう一人の阿部氏は二月頃までいた。

★御厨文雄氏・元海軍第三〇

一〇設営隊主計長

広島に原爆が落とされた後は、いろいろと情報が入ってきたので、終戦が近いことを知った。

戦後、部隊が移動するたびに物資がなくなっていく。とくに特務関係の人は多くの物資を持ち帰った。下士官以上は殺されるというので、郷里に帰った人を呼び戻したりした。

「八月末までに日吉から撤退しろ」と言われ、八月二〇日に部隊を解散し、兵には米・毛布などの物資を渡し復員させた。部隊全員に退職金をあげた。私は八月二七、二八日頃日吉を撤退し、ドイツ大使館の隣りにバラックを建てて残務整理をした。負けた時から石を投げられる兵もいて、水兵服など軍服を着て歩けなかった。

★若林繁雄氏・元海軍人事局

・主計兵曹長

終戦の時、地下壕の前の広場に集まり、人事局長の川合少将の話を聞いた。「米軍が来ても乱暴しない。重要書類を焼いているようだが、機密など特別のもの以外は焼く。紙はこれから手に入らなくなると貴重となる。裏が使えるので焼くな」という意味のことを言ったのが印象に残っている。焼かなかったものは戦後処理のために海軍省に移した。

私は書類とともに昭和二〇年八月下旬、補修した海軍省に戻った。退役したのは一月一日である。残務整理は復員省に引継がれたので、そのまま従事した。昭和二二、二三年頃経済査察所ができ、隠匿物資を取り締まる査察官になった。経済査察庁に組織替えになり、二六年春までいた。その後、その頃できた警察予

備隊に入った。警察予備隊は

二七年三月保安庁になり、二九年一〇月防衛庁に変わった。

この時、自衛隊になり、陸・海・空ができた。保安庁の時は、海上警備隊、陸上警備隊と言った。

★菅谷源作・元連合艦隊司令

部電氣長

八月一五日は寮の前に集まって玉音放送を聞いた。その後、残務整理のため九月一日まで日吉にいた。書類は目黒の海軍大学校に送ったが、かなり焼いた。

機関科に大林という技師がいたが、戦後大林組の社長になった。

増淵というボイラー係をしていた下士官は地下壕の前のカマボコ兵舎の先に三軒ばかりあった農家の娘と戦後結婚した。

今野という木工の巧い兵曹長がいて、司令長官に頼まれ

た額や木箱などを作っていたが、どうしているだろうか。

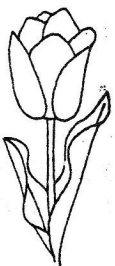
★斎藤君子・元海軍軍令部第

三部理事生

終戦の時に「もう来ないでよい」と言われた。終戦は日吉にいて玉音放送を聞いて知った。集まって聞いた記憶がある。戦争が終って嬉しいと思っただけ。もう怖い思いはしないですむと思った。

私の家は東横線の学芸大学で、戦災にもあわず、疎開もなかった。特攻隊員になる予定だった弟は四国にいて昭和二〇年九月に復員した。

(生協ニュース教職員版第五〇五三号より抜粋転載)



日の運営委員会で再々検討す

れのため簡単に行われた

お集りいただいた方々で、この10年を振り返り、今後の活動の糧となるようなお話をしたいと思います。古い会員の方々、新しく入られた会員の方々の日吉台地下壕に対する思いを忌憚なくお話しただきたく、大勢の方々のご来場をお待ちしています。

